西条廃寺跡

さいじょうはいじあと

文化財愛護シンボルマーク

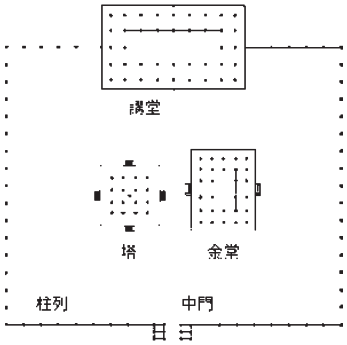
名　　称	西条廃寺跡	指　　定	兵庫県指定文化財
数　　量	１件	指定分類	史跡
時　　代	飛鳥・奈良時代　７世紀末	指定名称	西条廃寺跡
所 在 地	加古川市西条山手二丁目 28 番地ほか	指定年月日	昭和 44（1969）年３月 25 日
管 理 者	加古川市		

整備後の西条廃寺　全景

整備後の西条廃寺　塔基壇

西条廃寺跡は、加古川市西条山手二丁目にある市内最古の寺院跡で、標高約35mの台地上に位置しています。昭和56（1981）年から昭和58（1983）年に行われた発掘調査によって、詳しい伽藍配置がわかりました。また、７世紀末頃に創建され、９世紀頃まで存続していた可能性が強くなりました。

伽藍配置は、塔を西、金堂を東へ置く法隆寺式に類似しており、南の中門から続く掘立柱列が塔と金堂を囲み、北に置かれた講堂へ取り付く形をしています。

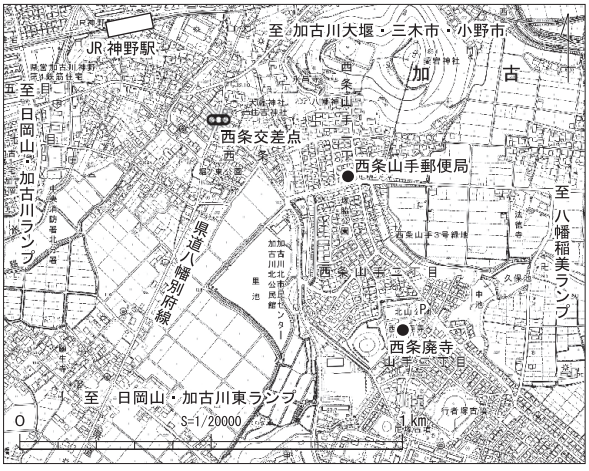


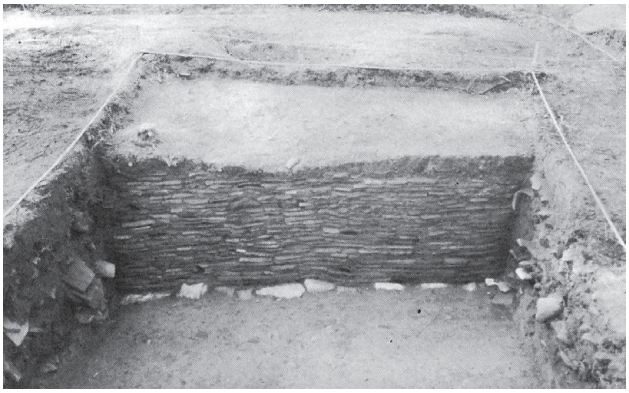
西条廃寺 伽藍配置図

塔跡は、一辺約11mの方形で、瓦を積み上げて外装とする瓦積基壇です。心柱を支える塔心礎は、この地域で産出する竜山石（流紋岩質凝灰岩）でつくられています。原位置から何度か移動していますが、現在は元の場所に戻されています。

金堂跡と講堂跡は大部分が既に削られていたものの、建物の周囲を雨落溝が巡っていたことがわかり、金堂跡については、塔跡と同じく瓦積基壇であることや、西側面に階段があったことなどが確認されています。

中門跡は、掘立柱による八脚門で、中門から左右に伸びる掘立柱の列は、回廊のように塔と金堂を囲んでいたと考えられています。また、西隣の人塚古墳の周濠に接して、築地塀のような遺構も見つかっています。





発掘調査時の塔跡瓦積基壇

出土遺物は、軒平瓦・軒丸瓦などの瓦類が最も多く、中には法隆寺西院伽藍の影響がみられる瓦もあります。そのほかには、須恵器・土師器などの土器類に加え、銅製の風鐸や相輪、水煙といった塔の装飾部材も出土しています。

このように、西条廃寺跡は、播磨地方における仏教文化の広がりを考えるうえで貴重なものといえます。

また、西条廃寺跡に近接して行者塚古墳をはじめとした西条古墳群があることから、この寺院が造立された背景に、古墳時代から続く地域の豪族の存在が感じられます。

平成３（1991）年から平成６（1994）年まで整備事業が行われ、史跡公園として人々の学びと憩いの場になりました。伽藍の復元にあたっては、発掘調査の成果をもとに創建当時の配置を示しています。特に、塔跡には実物の塔心礎を据え、瓦積基壇の南面と東面には、実際に出土した瓦を復元に使用しています。

（文／古林）

●参考文献
『西条廃寺発掘調査報告書』加古川市教育委員会（1984年）
『よみがえる伽藍～西条廃寺と播磨の古代寺院～』加古川総合文化センター（1994年）
『加古川市史 第４巻』加古川市（1996年）

●キーワード
西条廃寺　寺院跡　発掘調査　法隆寺式伽藍配置　塔　金堂　瓦積基壇　塔心礎　竜山石　雨落溝　八脚門　軒平瓦　軒丸瓦　風鐸　水煙　史跡公園　西条古墳群

●所在地／兵庫県加古川市西条山手二丁目28番地ほか

●交　通／ＪＲ加古川線「神野」駅から南東へ徒歩15分
車は東播磨南北道路「八幡稲美ランプ」から西へ２km

編集・発行：加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
令和３年３月31日(2021.03.31／1000)